

6. 若年夫婦の家事時間の变化とその要因—日米比較—

永井 暁子

1. 分析課題

本稿ではどのような夫が家事を分担するのかではなく、どのような生活上の変化が夫の家事分担を変化させるのかに焦点を当てる。家族内の役割分担がどのように変化していくかに着目する。

既存の研究では主に前者について説明されることが多かった。家事分担を説明する3つの説として、資源説、イデオロギー説、時間の入手可能説があげられることが多い。たとえば、資源説では妻の学歴が高い、あるいは妻の収入が多いほど夫は家事を行うと説明している。イデオロギー説では夫あるいは妻の性別役割分業観が平等的であるほど夫は家事を行い、時間の入手可能説では妻がフルタイム就業など時間に拘束されているほど夫は家事を行うとしている。これらの説から家事分担の変化を考えれば、おそらく妻の収入が上昇すれば夫の家事分担が増えるであろうし、妻が無職からフルタイム就業に変われば夫の家事分担は増えると思われる。平等的な性別役割分業観を夫、妻がもっているから妻はフルタイム就業をするのか。あるいは家事を行う夫を持っているから、妻はフルタイム就業をするのか。家事をするようになって、平等的な性別役割分業観をもつのか。家事分担の変化とそれらの変化についてはこれまでに明確にはされていない。

本稿では夫の家事分担変化の概観を捉えるために、家族生活に大きな絵変化をもたらすであろう妻の就業状況の変化とライフステージの変化を取り上げる。たとえば、妻がフルタイム就業を継続しているケースと無職やパートタイムからフルタイムに変わったケースで夫の家事分担は異なるのだろうか。また、妻の就業形態に変化がないとき、夫の家事分担も変化はないのだろうか。子供が産まれると夫は家事を行うのか。子どもが大きくなると夫は家事を行わないのか。といった問題である。

さらに、性別役割分業観がかなり異なっている日本とアメリカでは、夫の家事分担の変化と妻の就業やライフステージの変化との関係がどのように異なるのかを検討するつもりである。

2. 分析方法と分析結果

2.1 データ

アメリカのデータ (NSFH) の調査実施年は NSFH1 1986-87年、NSFH2 1992-94年である。日本のデータは(財)家計経済研究所が1993年から毎年実施している「消費生活に関するパネル調査 (JPSC: Japanese Panel Survey on Consumers)」データである。1993年に24-34歳の若年女性を全国から1,500人抽出し、生活変動や就業、家計収支・貯蓄、家計管理、生活時間、耐久消費財取得、生活意識などを調査項目としている(表1)。現在公表可能なデータはPANEL4(1996)までであるので、今回、分析に用いたのはPANEL1

(1993) と PANEL4 (1996) である。

NSFH データは JPSC データにあわせ、分析対象は上積みを除いた基本回答者とし、女性であり NSFH1 で 24 ～ 34 歳のものに限定した。さらに NSFH、JPSC とともに同一のパートナーと配偶関係を続けている者に限定し、NSFH、JPSC の分析対象者はそれぞれ 599 名、854 名である。

分析対象者の属性については表 2 に示している。妻の年齢層については日米で大きな違いはない。夫の年齢は JPSC の方が NSFH よりも高い年齢層の者が多い。日本の方が夫婦間の年齢差が平均的には大きいのかもかもしれない。学歴についてはシステムがかなり異なるので単純には比べられないが、日本の方が妻に関しては学歴の低い者が多く、夫については学歴の高い者が多い。ライフステージの変化については日米でそれほど大きな差異ない。親との同居の状況をみると日本では 4 割近くが同居しているのに比べ、アメリカではほとんど同居していない。結婚年数については日本よりもアメリカの方が結婚年数の長いものが多い。また、2 時点とも専業主婦でいる妻の割合は日本の方が高く 43.3 %、アメリカでは 21.5 % である。

2.2 変数の操作化

2.2.1 被説明変数

夫の家事に関する変数は JPSC では平日と休日の生活時間と家事分担率の 2 項目が該当する。生活時間は「家事・育児」以外に「通勤・通学」、「仕事」、「勉学」、「趣味・娯楽・交際」、「上記以外の睡眠・食事・入浴・身の回りの用事など」の 6 項目についてを尋ね、合計 24 時間になるように回答してもらっている。家事分担率は「食事のしたく」、「食事の後片づけ」、「部屋の掃除」、「子どもの登校（園）の送り迎え」、「家庭での子供の世話」、「日常の買い物」、「家具・家電製品の修理・大工仕事」の 7 項目について、それぞれ妻本人、夫、そのほかの人が何%ずつ分担しているかを合計 100 %になるように回答してもらっている。

NSFH の家事に関する項目は、「食事のしたく」、「食事の後片づけ」、「掃除」、「戸外や家屋の手入れ」、「日用品などの買い物」、「洗濯・アイロンがけ・縫い物」、「請求書の支払いや家計簿つけ」、「車の手入れ・修理」、「世帯成員の職場・学校・その他の活動への送り迎え」の 9 項目について、本人、その配偶者／パートナー、それ以外の 18 歳以下の者、それ以外の 19 歳以上の者がそれぞれ 1 週間にたいてい何時間行っているかを回答してもらっている。

JPSC の時間項目では家事と育児を同時にきいているのに対して、NSFH ではそれぞれ別に聞いている。また、JPSC では合計 24 時間になるようにきいているのに対して、NSFH ではそのようにはきいていない。これらの変数を調整するために、JPSC では家事分担率の変数としては、家事分担率の変数を用いて、夫婦間での夫の割合を計算し被説明変数とした（夫婦間の夫の家事分担率 = 全体に対する夫の割合 / (夫の割合 + 妻の割合) × 100）。NSFH では家事時間の変数から被説明変数を作成した。作成の手順は分子を夫の家事時間とし、分母は夫、妻の家事時間の合計である（夫婦間の夫の家事分担率 = 夫の家事時間 / (夫の家事時間 + 妻の家事時間) × 100）。家事項目は JPSC は 7 項目、NSFH は 9 項目であり、その中から日常的に行われる頻度の高い「食事のしたく」、「食事の後片

づけ（以下、「後片づけ」に省略）、「掃除」の3項目を選んだ。

2.2.2 説明変数

JPSCの妻の就業に関する変数は就業形態を用いた。2時点の「無職」、「パートタイム」、「フルタイム」、「自営」の組み合わせから変数を作成した。NSFHでは主な仕事は自営である者は少なかったため、仕事時間の変数を用いた。NSFHでは週30時間以上の仕事をフルタイムとよび、30時間未満をパートタイムとしているので、週0時間、週1～29時間、週30時間以上に分け、それぞれを「無職」、「パートタイム」、「フルタイム」とし、2時点のそれらの組み合わせから変数を作成した。

ライフステージは2時点ともに子どもがいないケース、子どもがいなかったが乳幼児が増えたケース、子どもはいたがこの間に乳幼児が増えたケース、子どもが1時点めにいてその後乳幼児は増えていないケースに分類した。ただし、NSFHでは同居子のみを取り上げているので、この変数は厳密に言えばライフステージとはいえない。

2.3 分析方法と分析結果

まず全く家事を行わない夫がどのくらいいるのかを比較してみよう。日本ではPANEL1において「食事のしたく」80.0%、「後片づけ」73.7%、「掃除」78.4%の夫が全く行っていない。PANEL4においてもほぼ同じ傾向であり、さらに2時点とも全く家事を行っていないのは、「食事のしたく」71.5%、「後片づけ」64.7%、「掃除」70.8%である（表3、表4、表5）。日本では全く家事を行わない夫がほとんどである。この中では「後片づけ」は比較的夫が行う家事項目であるようだ。

アメリカにおいても全く家事を行わない夫は少なからずいるが、日本に比べるとはるかに少ない（表6、表7、表8）。NSFH1において「食事のしたく」29.5%、「後片づけ」41.1%、「掃除」46.2%の夫が全く行っていない。さらに2時点とも全く家事を行っていないのは、「食事のしたく」12.8%、「後片づけ」21.5%、「掃除」24.7%である。食生活などの文化的な差も考えられるが、わずかでも食事のしたくをする夫が多い点は、日本とは全く異なっている。

次にライフステージ変化と妻の就業変化によるJPSCの二元配置の分散分析の結果をみてみよう（表9、表10）。日本では親と同居している場合、多くの世帯で親と妻によって家事がなされる。ライフステージの変化や妻の就業の変化はほとんど親によって吸収されることが多い。この分析では夫婦間の家事分担率を扱っているなので親と同居したことのあたるケースは除き、491ケースで分析した。

この分析結果ではライフステージの変化による影響はみられず、妻の就業形態の変化が夫の家事分担率に影響しているようである。「食事のしたく」に関して有意な関連がみられたのはPANEL4のみであった。つまり、妻の就業変化の影響は「後片づけ」や「掃除」には影響するが、「食事のしたく」はそれとかわりなく行われていることが多いということであろうか。PANEL4では「無職継続」は「フルタイム継続」や「パートタイム→フルタイム」よりも夫の分担率が低かった。PANEL1からPANEL4まで自営以外の形で働き続けた場合はずっと無職だったケースよりも夫の分担率が高いということである。

「後片づけ」についてPANEL1での多重比較の結果をみると、「フルタイム継続」は「パ

ートタイム継続」、「自営継続」、「無職→パートタイム」、「無職継続」に比べて夫の分担率は高い。PANEL4 では「フルタイム継続」は「無職継続」に比べて分担率が高く、「無職→フルタイム」は「パートタイム継続」、「パートタイム→無職」、「自営継続」、「無職→パートタイム・自営」、「無職継続」よりも分担率は高い。PANEL1 ～ PANEL 4での変化については「無職→フルタイム」の方が「フルタイム継続」、「フルタイム→無職」、「パートタイム継続」、「パートタイム→無職」、「無職→パートタイム・自営」、「無職継続」よりも夫の分担率は上昇している。フルタイムであることは2時点とも夫の分担率は高い。PANEL4 では無職からフルタイムに就いたあるいは復職することによって、夫の分担率は「フルタイム継続」と有意な違いはなくなる。フルタイムの仕事に就くことによって夫は家事を分担するようになるが、時間の経過とともに徐々にその分担率は低下するのかもしれない。

PANEL1 の「掃除」について多重比較をしたところ、「フルタイム継続」は「無職→パートタイム」や「無職継続」に比べて夫の分担率は高い。PANEL4 においても「パートタイム→無職」、「無職→パートタイム」や「無職継続」に比べて「フルタイム継続」は夫の分担率は高い。また、「自営→フルタイム」は「フルタイム・パートタイム→無職」や「無職継続」よりも夫の分担率は高い。PANEL1 ～ PANEL 4での変化については「フルタイム→無職」と「無職→フルタイム」の間に有意な違いがある。この家事項目においてもフルタイムであることやフルタイムになることは、夫の家事分担率に影響を与える要因である。ただし、これら3項目のフルタイム継続をみると、1時点目よりも2時点目の方が分担率は低下している。

NSFH についての二元配置の分散分析の結果は表 11、表 12 に示している。まず NSFH1 の「食事のしたく」について多重比較をすると、「子どもなし継続」、「子どもなし→乳幼児」の方が「子どもあり継続」よりも夫の分担率が高い。つまり、子どもがいない時の方が夫の家事分担が多いということである。しかし NSFH2 ではこの傾向はあらわれていない。

就業変化をみると、「無職継続」、「無職→フルタイム」は「フルタイム継続」、「フルタイム→無職・パートタイム」よりも夫も分担率が低い。NSFH2 では「無職継続」は「無職→パートタイム」、「パートタイム継続」、「フルタイム継続」に比べて夫の分担率が低い。NSFH1 ～ NSFH2 にかけての変化については「無職→フルタイム」は「パートタイム→フルタイム」、「フルタイム継続」に比べて夫の分担率が上昇している。「無職→フルタイム」は「無職継続」、「フルタイム→無職・パートタイム」、「フルタイム継続」に比べて夫の家事分担率は上昇している。また、「パートタイム→フルタイム」は「フルタイム→パートタイム」に比べて夫の家事分担率は上昇している。その時点ごとにみればフルタイムは無職よりも夫の家事分担率は高く、時点間の変化でみると「無職→フルタイム」はパートタイムからフルタイムに変わったり、フルタイムを継続している場合よりも上昇している。NSFH2 の時点でこれらに有意な違いはないので、フルタイムへの就業変化によって夫の家事分担率はほぼ等しくなったと考えられる。

「後片づけ」については NSFH1 では「子どもあり継続」は「子どもなし継続」、「子どもなし→乳幼児」よりも分担率が低い。「無職継続」は「フルタイム→無職・パートタイム」、「フルタイム継続」よりも分担率が低い。「無職→パートタイム」は「フルタイム→

パートタイム」よりも、「無職→フルタイム」は「フルタイム→無職・パートタイム」、「フルタイム継続」よりも分担率が低い。NSFH2 では「パートタイム→フルタイム」は「無職継続」、「無職→パートタイム」よりも分担率は高い。NSFH1 ～ NSFH2 の変化については「子どもなし継続」は「子どもあり継続」よりも分担率が減少している。「後片づけ」の夫の分担率は「食事のしたく」とは若干異なる結果になったけれども、子どもがいない時の方が夫の家事分担が多いという点、その時点ごとの妻の就業状況に影響を受けるという点で共通した傾向にある。

NSFH1 の「掃除」についてライフステージによる違いをみると、「子どもなし継続」は「子どもあり→乳幼児」、「子どもあり継続」よりも、「子どもなし→乳幼児」は「子どもあり継続」よりも夫の家事分担率は高い。やはり、子どもがいない時には夫の家事分担が多いということである。

妻の就業変化との関連では、NSFH1 において「フルタイム→無職」は「無職継続」、「無職→フルタイム」よりも夫の家事分担率は高く、また「フルタイム→パートタイム」は「無職継続」、「無職→フルタイム」、「パートタイム継続」、「パートタイム→フルタイム」よりも、「フルタイム継続」は「無職継続」、「無職→フルタイム」よりも夫の家事分担率は高い。NSFH2 では「無職継続」は「パートタイム→フルタイム」、「フルタイム継続」よりも分担率は低く、「無職→パートタイム」は「パートタイム→フルタイム」よりも低い。NSFH1 ～ NSFH2 では「無職→フルタイム」は「パートタイム→無職」、「フルタイム→無職・パートタイム」よりも分担率が上昇し、「パートタイム→フルタイム」は「パートタイム→無職」、「フルタイム→無職・パートタイム」、「フルタイム継続」よりも分担率が上昇している。各時点ではフルタイムは無職よりも夫の家事分担率は高い。時点間の変化でみると「無職→フルタイム」は「パートタイム→フルタイム」よりも「パートタイム→フルタイム」は「フルタイム継続」よりも夫の分担率は上昇している。NSFH2 の時点でこれら間に有意な違いはないので、これらの就業変化によって夫の家事分担率はほぼ等しくなったと考えられる。

3. 考察

日米を比較すると、明らかに全く家事をしない夫の割合は日本の方が多い。しかしアメリカにおいても公正な家事分担がなされているわけではない。本稿で「夫の家事分担率が高い」という表現を頻繁に用いているが、正確には「分担そのものはごくわずかであるけれども、他の夫に比べれば相対的に高い」ということになるだろう。今回は「食事のしたく」、「食事の後片づけ」、「部屋の掃除」のみをとりあげたが、日本では夫がもっとも家事を行う率の（わずかではあるが）高い家事項目は、「ゴミ出し」、「風呂掃除」、「食事の後片づけ」でといわれている。本稿で用いた項目以外の項目で分析したとしても日米の夫の家事分担の差はかなり大きいだろう。

日本では行う夫の率がそれほど高くはない「食事のしたく」は、アメリカでは行う夫の率が高い項目であった。日米の食生活の差も考慮しなければならないかもしれない。たとえば、出来合いの総菜を買ってくるだけの行為や冷凍食品を冷凍庫から出し電子レンジで

暖める行為を、日本の回答者は「食事のしたく」と考えないかもしれない。実際には日本でもそのような行為が食事の支度の中で頻繁にあり、それを夫が行っているのにカウントされていないのならば数値の開きは縮めて解釈しなければならない。しかし、「男子厨房に入らず」という考え方の違いともとれるであろうし、いずれにしろ日米の夫の家事分担率の差異は大きいといっていよう。

JPSC のデータから今回取り上げた家事の3項目については、ライフステージの変化ではなく妻の就業変化が夫の分担率に影響していた。とくに妻がフルタイムであることがより大きな影響を与える。しかし、フルタイムの仕事を継続していても夫の家事分担率は徐々に減少していくようである。

JPSC では妻の就業変化と夫の家事分担率との関連がみられたが、ライフステージ変化との関連はみられなかった。NSFH のデータの分析では妻の就業状況とともに、ライフステージの影響もみられた。ライフステージによる影響というのは、子どもがいない方が夫の家事分担率が高いということである。妻の就業状況についてはフルタイムであるほど、またはフルタイムに変わると夫の家事分担率が高いということである。

概してフルタイム継続が1時点目でも2時点目でも夫の分担率が高いということは日米に共通しているようである。他方では、明確ではないが、妻がフルタイム継続のケースの夫の分担率は2時点間でわずかに減少傾向があるが、アメリカでは必ずしもそうではなかった。日本の方が加齢とともに夫は会社の拘束され、徐々に家事から遠のくのかかもしれない。

ここで、尺度の問題についてふれておく。NSFH データの家事分担率変数は時間変数を用いて作成しているため、もともと分担率をたずねている JPSC に比べると、妻の就業状況やライフステージといった説明変数に対してより敏感に反応する可能性がある。時間は有限であるので、妻の仕事時間が増加すれば必然的に家事時間は減少する。また、子どもの出産によって、育児時間が増加し家事時間が減少するかもしれない。つまり夫の家事量は増加しなくても、あるいは減少しても、妻の家事時間が減少すれば夫も分担率が増加してしまうという特性がある。それに対して JPSC の家事分担率変数は行った家事の割合をたずねているので、時間を用いた場合よりはそのような影響はあらわれにくいと考えられる。今後、この点についても考慮していきたい。

今回は2時点（4～6年間）の就業変化を用いて分析したために、ややあらく、就業変化のタイミングによる家事分担率変化の分析にまで至らなかった。今後より詳細な就業変化の変数を用いることによって、どの時点で家事分担が変化するのかを明らかにしていきたい。

表1. JPSCの調査方法

	PANEL 1 (1993年度)	PANEL 4 (1996年度)
調査地域	全国	全国
調査対象	満24-34歳の女性	PANEL 1 調査対象者
完了数	1500票(有配偶1002無配偶498)	1289票(有配偶994無配偶295)
抽出方法	層化2段無作為抽出	
調査方法	留置法	留置法
調査時期	1993年10月1日～31日	1996年10月1日～31日

表2. 分析対象者の属性

(1)妻年齢(初回) (%)

	JPSC	NSFH
24～29歳	43.3	46.6
30～34歳	56.7	53.4
合計	100.0	100.0

(2)夫年齢(初回) (%)

	JPSC	NSFH
19～23歳	0.5	1.2
24～29歳	24.3	30.9
30～34歳	39.1	42.1
35～39歳	27.3	18.5
40歳～	8.8	7.3
合計	100.0	100.0

(3)妻学歴(初回) (%)

	JPSC	NSFH
中学など	6.5	6.7
高校	47.9	40.8
専門・専修/大学中退	16.8	21.2
短大・高専	19.6	6.7
大学・大学院	9.2	24.6
合計	100.0	100.0

(4)夫学歴(初回) (%)

	JPSC	NSFH
中学など	10.7	6.9
高校	40.7	36.9
専門・専修/大学中退	12.3	19.4
短大・高専	3.4	9.3
大学・大学院	32.8	27.7
合計	100.0	100.0

注 専門・専修はJPSC,大学中退はNSFH

注 専門・専修はJPSC,大学中退はNSFH

(5)ライフステージの変化 (%)

	JPSC	NSFH
子どもなし継続	5.1	5.2
子どもなし→乳幼児	8.9	10.9
子どもあり→乳幼児	23.9	16.7
そのほか子どもあり継続	62.1	67.2
合計	100.0	100.0

(6)居住形態変化 (%)

	JPSC	NSFH
親非同居継続	57.5	97.5
親非同居→親同居	3.6	2.0
親同居→親非同居	3.0	0.5
親同居継続	35.9	0.0
合計	100.0	100.0

注 NSFHは同居子のみ

(7)結婚年数(初回) (%)

	JPSC	NSFH
2年以内	19.9	11.0
3～5年	30.8	22.4
6～8年	23.5	26.5
9～11年	19.3	18.7
12年以上	6.5	21.4
合計	100.0	100.0

(8)妻の就業変化 (%)

	JPSC	NSFH
フルタイム継続	11.6	29.6
フルタイム→パートタイム	0.6	7.1
フルタイム→自営	0.5	-
フルタイム→無職	3.9	9.8
パートタイム→フルタイム	1.4	6.9
パートタイム継続	9.6	6.6
パートタイム→自営	1.2	-
パートタイム→無職	3.8	5.1
自営→フルタイム	0.5	-
自営→パートタイム	1.2	-
自営継続	6.1	-
自営→無職	0.8	-
無職→フルタイム	0.8	9.6
無職→パートタイム	11	3.7
無職→自営	3.9	-
無職継続	43.3	21.5
合計	100.0	100.0

図表3 PANEL1時点とPANEL4時点の夫の「食事のしたく」 (%)

		P A N E L 4							全体
		0%	1-10%	11-20%	21-30%	31-40%	41-50%	51%~	
P A N E L 1	0%	71.5	4.7	1.8	0.4	0.0	0.0	0.4	78.7
	1-10%	5.9	5.4	0.7	0.2	0.0	0.2	0.0	12.5
	11-20%	1.7	1.5	0.5	0.5	0.1	0.2	0.0	4.5
	21-30%	0.5	0.4	0.0	0.2	0.0	0.2	0.1	1.4
	31-40%	0.4	0.2	0.2	0.0	0.1	0.0	0.1	1.1
	41-50%	0.2	0.5	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	1.2
	51%~	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.7
	全体	80.3	13.0	3.2	1.3	0.4	1.1	0.8	100.0

図表6 NSFH1時点とNSFH2時点の夫の「食事のしたく」 (%)

		N S F H 2							全体
		0%	1-10%	11-20%	21-30%	31-40%	41-50%	51%~	
N S F H 1	0%	12.8	2.9	4.1	3.4	2.4	1.9	1.2	28.8
	1-10%	2.4	3.4	2.4	0.5	0.7	0.0	0.5	9.9
	11-20%	4.4	2.7	4.8	2.4	2.7	0.7	1.0	18.6
	21-30%	2.7	1.9	6.3	2.2	0.5	2.7	1.5	17.7
	31-40%	0.7	0.5	2.2	2.2	1.0	1.0	0.5	8.0
	41-50%	0.7	0.2	0.5	2.7	0.7	2.4	1.2	8.5
	51%~	1.0	0.0	0.7	1.7	0.7	1.7	2.7	8.5
	全体	24.7	11.6	21.1	15.0	8.7	10.4	8.5	100.0

図表4 PANEL1時点とPANEL4時点の夫の「後片づけ」 (%)

		P A N E L 4							全体
		0%	1-10%	11-20%	21-30%	31-40%	41-50%	51%~	
P A N E L 1	0%	64.7	5.1	2.8	0.6	0.2	0.2	0.1	73.7
	1-10%	6.1	4.7	0.4	0.6	0.1	0.5	0.1	12.5
	11-20%	3.3	1.1	1.2	0.6	0.4	0.6	0.1	7.2
	21-30%	0.6	0.1	0.8	0.5	0.2	0.2	0.0	2.5
	31-40%	0.5	0.1	0.5	0.2	0.2	0.0	0.0	1.5
	41-50%	0.4	0.1	0.1	0.4	0.1	0.7	0.1	1.9
	51%~	0.1	0.1	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	0.7
	全体	75.6	11.3	5.9	3.1	1.3	2.4	0.5	100.0

図表7 NSFH1時点とNSFH2時点の夫の「後片づけ」 (%)

		N S F H 2							全体
		0%	1-10%	11-20%	21-30%	31-40%	41-50%	51%~	
N S F H 1	0%	21.5	2.2	4.0	4.0	3.7	3.0	1.7	40.0
	1-10%	1.0	0.5	1.5	0.2	0.2	0.0	0.5	4.0
	11-20%	5.4	1.2	2.7	2.2	2.0	3.5	0.7	17.8
	21-30%	1.2	0.7	2.7	2.7	1.7	1.2	0.5	10.9
	31-40%	1.5	0.0	1.7	1.2	1.2	3.5	0.5	9.6
	41-50%	2.0	0.0	1.7	1.5	1.2	4.7	1.5	12.6
	51%~	1.2	0.0	0.5	0.5	0.2	1.0	1.7	5.2
	全体	33.8	4.7	14.8	12.3	10.4	16.8	7.2	100.0

図表5 PANEL1時点とPANEL4時点の夫の「掃除」 (%)

		P A N E L 4							全体
		0%	1-10%	11-20%	21-30%	31-40%	41-50%	51%~	
P A N E L 1	0%	70.8	6.1	2.4	0.4	0.4	0.1	0.0	80.1
	1-10%	6.3	5.1	1.2	0.1	0.0	0.0	0.1	12.7
	11-20%	2.0	1.3	0.7	0.7	0.0	0.0	0.1	4.8
	21-30%	0.2	0.1	0.6	0.0	0.0	0.1	0.1	1.2
	31-40%	0.4	0.1	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.8
	41-50%	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
	51%~	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2
	全体	79.7	12.7	5.1	1.3	0.5	0.4	0.4	100.0

図表8 NSFH1時点とNSFH2時点の夫の「掃除」 (%)

		N S F H 2							全体
		0%	1-10%	11-20%	21-30%	31-40%	41-50%	51%~	
N S F H 1	0%	24.7	2.3	7.1	3.6	4.1	3.3	2.0	47.1
	1-10%	1.3	3.3	1.5	0.3	0.3	0.3	0.0	6.9
	11-20%	6.1	2.0	4.3	1.8	2.3	1.5	0.3	18.3
	21-30%	1.5	0.0	2.3	1.5	2.3	1.3	0.3	9.2
	31-40%	2.0	0.5	2.5	0.3	0.8	1.0	0.0	7.1
	41-50%	1.3	0.3	1.8	1.5	1.0	2.8	0.8	9.4
	51%~	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	1.0	0.3	2.0
	全体	36.9	8.4	19.6	9.2	11.2	11.2	3.6	100.0

表9. 夫の家事分担に関する分散分析(JPSC)

	食事のしたく			後片づけ			掃除		
	PANEL1	PANEL4	PANEL4-1	PANEL1	PANEL4	PANEL4-1	PANEL1	PANEL4	PANEL4-1
ライフステージ変化	0.6	1.4	1.1	1.9	0.5	0.7	2.3	1.3	0.7
妻の就業形態変化	1.5	2.6**	1.4	4.9**	3.0**	2.3**	2.7**	3.7**	2.3**
F値	1.4	2.3**	1.3	2.8**	2.5**	2.3**	2.8**	3.2**	2.3**
adj-R2	0.014	0.043	0.050	0.129	0.050	0.044	0.060	0.071	0.044

** p < 0.01 * p < 0.05

注 親と別居継続のみ分析。自営からパートタイムに変わったケースは1ケースのみだったため、この分析からは除外。

表10. 夫の家事分担の調整済み平均(JPSC)

	食事のしたく						後片づけ						掃除						
	PANEL1		PANEL4		PANEL4-1		PANEL1		PANEL4		PANEL4-1		PANEL1		PANEL4		PANEL4-1		
ステ ー ジ	子どもなし継続	5.5	1.7	2.9	1.7	-2.6	1.9	3.6	2.4	3.3	2.2	-0.2	2.5	5.6	2.5	10.2	3.0	0.7	2.6
	なし→乳幼児	4.8	1.3	5.6	1.3	0.7	1.5	8.5	1.9	6.1	1.7	-2.4	1.9	8.7	2.0	8.6	2.4	-0.4	2.0
	あり→乳幼児	3.5	1.0	5.1	1.0	1.6	1.1	6.4	1.4	4.7	1.3	-1.6	1.5	4.6	1.5	3.8	2.3	-0.3	1.5
	子どもあり継続	3.6	0.9	4.7	0.9	1.1	1.0	5.4	1.3	6.3	1.2	1.0	1.3	5.2	1.3	6.8	1.5	2.1	1.4
就 業 変 化	フルタイム継続	8.6	1.4	7.6	1.4	-1.1	1.6	13.0	2.0	12.5	1.8	-0.5	2.1	15.7	2.1	13.0	2.2	-2.1	2.2
	フルタイム→パートタイム	10.0	5.9	5.0	5.8	-5.0	6.5	0.0	8.2	0.0	7.6	0.0	8.4	0.0	8.6	0.0	7.9	0.0	8.9
	フルタイム→自営	0.0	4.8	0.1	4.7	0.1	5.3	3.3	6.7	0.3	6.2	-3.0	6.9	6.6	7.0	0.0	6.8	-6.5	7.2
	フルタイム→無職	1.1	2.0	2.4	2.0	1.4	2.2	12.0	2.8	1.3	2.6	-10.7	2.9	11.6	3.0	4.3	2.9	-6.1	3.1
	パートタイム→フルタイム	4.4	3.2	14.7	3.1	10.3	3.5	2.8	4.4	10.1	4.1	7.3	4.5	5.8	4.6	4.0	6.0	1.0	4.8
	パートタイム継続	3.0	1.4	3.3	1.3	0.3	1.5	5.1	1.9	4.2	1.7	-0.9	1.9	5.0	2.0	6.5	3.0	2.0	2.0
	パートタイム→自営	1.3	4.8	3.3	4.7	2.0	5.3	21.7	6.7	6.8	6.2	-14.8	6.9	10.0	7.0	11.8	6.4	1.8	7.2
	パートタイム→無職	2.7	1.9	3.5	1.9	0.8	2.1	6.4	2.6	1.6	2.4	-4.9	2.7	4.4	2.8	1.2	3.2	-2.7	2.9
	自営→フルタイム	5.0	5.9	15.0	5.8	10.0	6.5	15.0	8.2	30.0	7.6	15.0	8.4	1.0	8.6	30.0	7.9	29.0	8.9
	自営継続	5.1	2.1	4.7	2.1	0.0	2.4	0.8	2.9	1.9	2.8	1.4	3.1	0.8	3.0	1.0	4.3	1.3	3.2
自営→無職	5.0	3.7	2.0	3.7	-3.0	4.1	4.0	5.2	3.8	4.8	-0.2	5.3	3.6	5.4	3.3	5.3	-2.0	5.6	
化	無職→フルタイム	9.0	3.4	4.8	3.4	-4.2	3.8	0.0	4.8	12.7	4.4	12.8	5.0	3.4	5.0	43.0	6.1	21.4	5.2
	無職→パートタイム	2.7	1.3	4.2	1.3	1.4	1.4	4.6	1.8	4.3	1.6	-0.3	1.8	4.0	1.9	4.2	3.7	2.6	1.9
	無職→自営	2.4	1.8	5.1	1.8	2.7	2.0	5.3	2.5	6.1	2.3	0.8	2.6	6.1	2.6	7.9	3.0	-0.8	2.7
	無職継続	3.2	0.7	2.0	0.7	-1.2	0.8	3.6	1.0	2.2	0.9	-1.4	1.0	4.6	1.0	3.2	1.3	-1.2	1.0

注 各項目左列平均値、右列標準偏差

表11. 夫の家事分担に関する分散分析(NSFH)

	食事のしたく			後片づけ			掃除		
	NSFH1	NSFH2	NSFH2-1	NSFH1	NSFH2	NSFH2-1	NSFH1	NSFH2	NSFH2-1
ライフステージ変化	3.3*	1.3	1.6	4.9**	1.0	2.8*	4.1**	2.3	1.1
妻の就業形態変化	4.9**	6.7**	3.0**	4.3**	3.8**	1.9	5.2**	4.3**	4.7**
F値	5.4**	5.6**	3.3**	5.9**	3.3**	2.7**	6.7**	3.9**	4.7**
adj-R2	0.103	0.083	0.059	0.114	0.044	0.044	0.133	0.54	0.94

** p < 0.01 * p < 0.05

表12. 夫の家事分担の調整済み平均(NSFH)

	食事のしたく						後片づけ						掃除						
	NSFH1		NSFH2		NSFH2-1		NSFH1		NSFH2		NSFH2-1		NSFH1		NSFH2		NSFH2-1		
ス テ ー ジ	子どもなし継続	26.0	4.0	26.6	3.9	1.1	4.8	24.5	3.6	21.2	3.5	-1.0	4.5	28.6	3.9	24.5	3.9	-5.9	4.8
	なし→乳幼児	22.9	3.1	20.7	3.0	-1.2	3.7	17.1	2.5	18.9	2.6	1.5	3.1	21.7	2.9	23.2	3.0	1.7	3.5
	あり→乳幼児	23.0	2.6	17.7	2.4	-3.5	3.1	15.1	2.2	15.8	2.1	1.7	2.8	21.9	2.5	19.2	2.4	-0.3	3.2
	子どもあり継続	16.6	1.4	19.0	1.3	3.7	1.7	12.1	1.2	14.2	1.2	5.7	1.5	15.4	1.3	19.9	1.3	6.1	1.7
就 業	無職継続	15.1	2.7	13.6	2.4	-2.0	3.4	10.2	2.3	12.6	2.1	1.9	3.0	14.6	2.6	16.3	2.4	2.1	3.3
	無職→パートタイム	14.3	5.4	11.7	4.9	-0.6	6.6	10.5	4.7	11.1	4.3	7.7	6.1	12.0	5.1	10.2	4.8	1.3	6.4
	無職→フルタイム	16.2	3.5	29.8	3.2	14.0	4.3	9.1	3.1	21.0	2.8	13.7	4.0	13.3	3.4	21.2	3.1	8.2	4.2
	パートタイム→無職	19.0	4.3	13.9	4.2	-2.8	5.3	20.7	3.6	13.8	3.7	-6.7	4.6	25.1	4.2	20.8	4.1	-0.7	5.2
変 化	パートタイム継続	20.6	3.7	20.6	3.7	1.2	4.4	14.4	3.5	15.1	3.2	4.2	4.3	21.2	3.7	21.2	3.7	-1.7	4.6
	パートタイム→フルタイム	22.7	4.1	31.0	3.7	9.5	4.9	14.5	3.6	28.2	3.2	15.9	4.5	22.6	3.9	33.7	3.7	10.4	4.7
	フルタイム→無職	28.4	3.1	19.2	3.0	-7.1	3.7	24.2	2.5	17.2	2.7	-4.4	3.2	27.7	3.0	20.8	3.0	-6.5	3.6
	フルタイム→パートタイム	29.7	3.5	19.8	3.5	-9.3	4.2	27.0	2.9	16.5	3.1	-10.4	3.7	30.7	3.3	26.2	3.5	-4.9	4.0
	フルタイム継続	30.2	2.0	28.5	2.0	-0.6	2.5	20.0	1.7	22.0	1.7	1.6	2.2	26.0	2.0	23.8	2.0	-0.2	2.4

注 各項目左列平均値、右列標準偏差

⑨

重点領域研究「マイクロ統計データ」・公募研究（課題番号 08209118）

「家族構造の国際比較のための基礎的研究－公共利用マイクロデータの作成と活用－」
研究報告書（3） 平成9年度

家族構造の国際比較研究をめざして

－米国NSFHデータの利用を通して（第2次報告）－

1998年3月

研究代表者 石原邦雄

（東京都立大学）